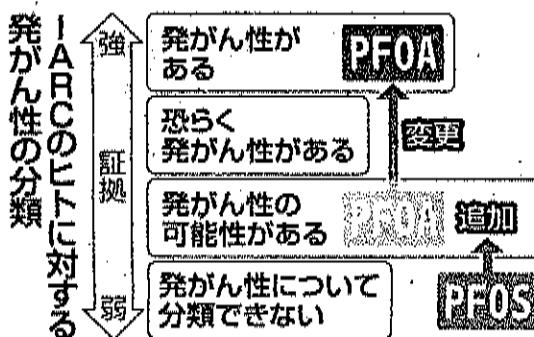


PFA S 発がん性ある

WHO認定・危険性引き上げ

世界保健機関（WHO）の専門組織、国際がん研究機関（IARC）は、全
の米軍施設や工場周辺で検出されている有機フッ素化合物（PFOAs）の一種で
あるPFOAの発がん性を「可能性がある」から2段階引き上げ、「ある」に認定
したと発表した。同じくPFOAsの一種、PFOSは新たに「可能性がある」の
分類に追加した。



確実性を評価して4段階に分類している。PFOAをこれまで、発がん性について下から2番目の分類としていたが、「最も高い「発がん性がある」に格上げした。同じ分類には、喫煙やアスベスト（石綿）が挙げられている。

ある」と懸念。市民は主に食品と飲料水によって摂取し、汚染地域では主に飲料水が摂取源だ」と指摘した。P-EASに詳しい京都大の原田浩一准教授（環境衛生学）は「2段階の引き上げは想定していなかったので驚いた。発がん性のリスクが上がるメカニズムが確かにあると評価されたのみである。今後、日本国内でも今回の知見を積極的に取り入れていくべきだ」と指摘する。

水質目標値超 13都府県で検出

P F A Sを巡っては、各地の米軍基地や自衛隊基地の周辺自治体の地下水からも暫定目標値を超えて検出。市民の血液検査に発展するケースもあり、問題は全国でみられる。

環境省によると、2021年度に実施した全国31都道府県の河川や湖、海、地下水の水質測定で、愛知など13都府県の81地点で目標値を超える値を検出。内訳は河川38地点、地下水43地点だった。

東京都などの調査では05年以降、多摩地域の水道水源を含む井戸（地下水）から高濃度のPFAASを検出。米軍横田基

住民の血液検査に発展も

地はP F A S を含む泡消火剤の漏出事故があつたことを公表した。不安視した市民団体が昨年11月から住民ら約800人に血液検査を実施したところ、取水停止した井戸を使っていた7市の住民の67%が「健康被害の恐れがある」とされる米国の指標を超えた。

愛知県豊山町では21年、かつて米軍が接収していた自衛隊小牧基地近くの配水場から目標値を上回るPFA Sを検出。同じく基地のある浜松市や岐阜県各務原市の井戸や河川からも目標値を超えて検出された。